

てくてく通信No.77

発行日 2020年 12月 12日
発行 福岡県ウォーキング協議会

ホームページ : <https://www.njsf.net/zenkoku/pref/fukuoka/walk/>

連絡先

新日本スポーツ連盟福岡県連盟事務所
〒811-2121 糟屋郡宇美町平和 1-3-11
TEL・FAX 092-934-0853
e-mail : merci8@tb4.so-net.ne.jp

新日本スポーツ連盟福岡県連盟北九州事務所
〒806-0013 北九州市八幡西区清納 1-1-10
TEL・FAX 093-662-9278
e-mail : krc-fn@jcom.home.ne.jp

11月例会「長崎街道を歩く（パート7）」

小雨にも負けず、16K超の肥前路を歩き通す

嶋田良裕



11月22日(日)、JR鳥栖駅に集合したのは13名。曇天の空を見上げながらの出発となる。

駅を出てまもなく、津島藩田代領の境界の轟川を渡ると佐賀鍋島藩の「轟木宿」へ。番所跡を過ぎ白壁の家が点在する街路を行くと「日子神社」(写真左)。

記念写真後、歩を進めるとかつての旅籠を思わせる建家も見られる。やがて宿の西はずれの薬師川、次なる「中原宿」へ向かう。

朝日山南麓の「安良のお宮」を過ぎ、ゴルフ場を抜けると「村田町筋」。東出入口には「地藏立像」が祀られている。往来の人々を守護していたのか。

道はやがて国道34号線とつながり、佐賀競馬場を左に見ながら進み、大刀洗峠に。ここはかつて、盗賊が出た場所。旅人を襲った刀を洗った場所?にちなんで命名かな。

そこから300メートル先の「ハンバーグ店」の美味しい昼食で一息つく。

「中原宿」は明治の大火で往時の面影はなく、街道沿いにゆったりと家が並ぶ静かな街だった。

「宿」を過ぎると再び道は34号線となり、行き交う車に負けず、小雨の中をひたすら歩く。

「上峰町」「吉野ヶ里町」を通過、神崎の市街地を前に、国道に別れを告げ、旧街道へ。

田園風景の中出会ったのが「ひのはしら一里塚」、長崎街道に現存する唯一の一里塚(写真右)で、堂々とした築山であった。

やがて「神崎宿」東の木戸口跡を通りJR神崎駅でウォークを終える。

「疲れました。長かったです。午後からは足も痛み出した。当時の人たちは健脚だったのかな。でも16キロ歩けたのは自信になったよ」と武富敏治さん(粕屋町)の感想です。



12月例会【篠栗巡りパート5と忘年会】

猫日よりの2万歩

井上妙子

12月6日(日)9:30 JR城戸南蔵院前駅に集合、冷たい風を受けて集合した私たちに2匹の猫のウエルカム。日曜日とはいえ、12月の寒さの中、南蔵院あたりは

人も少ないであろうと思いきや老若男女、数多い参拝者は意外でした。

紅葉もそろそろ終盤かなと思わせる色合いの中、落ち葉を踏みしめて歩いていくと時折、カメラに収めたくなる鮮やかなスポットにも出会い、心が弾みました。

5 番札所「郷之原地蔵堂」では、西村さんが熱く解説された「年金者組合」の共同墓地に、既知の方々のお名前があり、参加者の中には予約なさってお名前を載せている方もいらっしゃいました。

JR 筑前山手駅前で帰宅の神田さん・木村さんと別れる前に寄った 40 番札所「一の滝寺」についてはおもしろい後日談がありました。

ここでも日なたぼっこの猫たちの歓迎を受け、猫日よりの 2 万歩となりました。



この企画に感謝！

木村 洋子

駅にいた猫ちゃんに見送られながら城戸南蔵院駅を午前9時30分に出発。1 番札所・南蔵院から旧道を歩き、途中から遍路道へ。

紅葉には少し遅すぎた感あり。

正午前に年金者組合の共同墓のある郷の原に到着。

ここで小休止。見上げると青空が広がり、朝の寒さがうそのよう。

そこから山の道。落ち葉を踏む音、光で浮きあがる紅葉の葉、顔もほころぶ。山茶花もきれいだ。

点在する霊場。34 番札所・宝山寺、12 番札所・千鶴ではいわれを知り、いくつもの滝に耳を傾ける。小さなお堂に魅かれる。石段の苔むしで歴史を感じる。

午後1時30分、山手駅近くで振り返ると、山の色、空の色そして手には大きな松ぼっくり。ああ、来てよかった。この企画に感謝し駅へと向かう。

ここ七曲りには新吉野公園があり、来春は庶民の“桜を見る会”でもと思う。

この笹栗巡礼、白装束に身を包めばまた違った思いで歩めるのだろうか。



感染対策で忘年会

西 良子

午後2時から、旅館「亀の家」でちょっと早い忘年会。

会費 5,000 円は痛い料理の味付けは薄く、上品でおいしかった。

1 年間の反省をしながら京料理に舌鼓を打つ。

着替えの準備もしていたが、新型コロナ感染症の為に温泉がなかったのが残念。菅首相の提唱する食事会はこんな感じ？

味が落ちそうに思うのは私だけ？



【コラム】ボケとニュース

役所の職場に森田禮三さんという、労働組合の幹部がいた。彼が「退職しても労働組合の活動が継続できるように」と年金者組合の設立に奔走した。そして、八幡地区年金者組合を立ち上げた。マイクロバスを購入し、皆で旅行にも行った。その時、要求に出たのが安い墓が無い。そこで彼が奮闘して、篠栗の郷之原に共同墓地をつくった。その時の彼の印象を郷之原の住職は「高齢ながら組合の闘士を感じた。」と述べている。篠栗ウォークで井上さんが 40 番札所「一の滝寺」の記憶が無いと言う。一番例会に参加している井上さんが来てないはずはないと思い「ボケが来よるんやない？」と私が言った。家に帰って「てくてく通信」を探すと No57（発行日 2018.12.8）にありました。たまたま電車を乗り間違えて集合時間に間に合わず「一ノ滝寺」だけ見逃していたのです。当時の記憶がよみがえってきました。ニュースが証明になりました。（西村文男）